

(単元) バスケットボール

(本時のねらい)

- ①状況に応じたパスやドリブル, シュートなどのボールの基本操作を習得できるようにする。
- ②タブレットを活用し, ドリブルシュート等を客観的に確認することで, スムーズなドリブルシュートや効率の良い動作を意識して, 練習やゲームでできるようにする。
- ③チームメイトと連携した動きを高めて, ゲームを展開できるようにし, 勝敗を楽しむことができるようにする。

(ICT 活用方法)

- ①タブレットを用いて, グループ内で個別に, ドリブルシュートの動画を撮影し, グループ内で客観的に課題を把握し, 問題点を共有することにより, その解決に向けて努力し, 技能の向上を図る。
- ②他者の課題を見抜き, 把握することで, 自らの問題点として考えることができるようにする。
- ③グループ内又は講座内の共有ツールとして活用する。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT 活用方法	備考
導入 5分	本時の内容を理解する。	本時の内容を理解させる。		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動 ・基礎練習Ⅰ ※2人(3人)1組になって向かい合う。 1) キャッチボール 2) チェストパス 3) ドリブル ・基礎練習Ⅱ 「ドリブルシュート」 ※6～7人のグループになって行う。 ・ゲームを行う (4チーム編成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動をさせる。 ・全身をほぐしながら, ボールに慣れさせる。 ・全体が同一方向で行うことができるよう配慮する。 ・ゴール下までドリブルしない。 ・ボールを保持して3歩走らない。 ・立ち止まってシュートしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班でタブレットを用いて一人ずつ動画を撮る。 ・動画を各班で個々の状態を検証し, 問題点を共有する。 	
まとめ 5分	・本時のまとめを聞く	・客観的に動作を確認し, 修正することの大切さを知らせる。		

(授業の様子)

左の写真は、グループでドリブルシュートの様子を撮影し、それぞれ確認しているところである。また右の写真は、ゲームの様子を三階から撮影したものである。ゲーム中の個々の位置取りやドリブルシュートを含む、基本的技能の確認に用いることができる。



(生徒の反応と課題、改善を要する点)

生徒たちの多くは体育でスポーツに親しむことを楽しみにしている。特に、チームを決めてゲーム形式で活動することを望んでおり、比較的基礎・基本的な要素の活動を嫌う傾向にある。しかし、基礎・基本的な動きの習得が未熟な状態では、ゲームの中身が非常に希薄なものになっており、より高度な内容を追求する状態にならない。

事前に行ったバスケットボールに関するアンケート結果では、バスケットボールの基本動作の何処に苦手意識があるかとの問いに対して、大半の生徒がドリブルシュートとしている。ドリブルシュートの何処に問題点があるのか。3つの問題点がある。1つ目は、ゴール下までドリブルをしてしまうため、シュートができなくなるという点。2つ目はうまくドリブルができているものの、急に立ち止まりシュートを打つというケース。3つ目は、ドリブルをしてシュート体勢に入る際、どのタイミングでボールを保持したら良いのかわからず、3歩進んでしまうというケースである。授業では、よくバスケットボール部員や経験者などに、基本練習の途中で、お手本としてやってもらうことがある。その際何処が上達するポイントなのか答えてもらうという手法をよく使う。そのポイントについて再度練習を開始するが、なかなか上達に結び付かないのが常である。

6～7名程度のグループになり、タブレットを用いて個々のドリブルシュートを撮影し、まずは、自分の動作を確認すること。そして、他者の動きを確認する。それぞれの良い点と不十分な点を意見交換し、課題を解決するための方法を確認することで上達への近道となる。今回、生徒たちもタブレットを用いて、自分の動きを客観的に確認できたことで効果があったようである。しかし、その点について時間を多く費やすため、ゲームを行う時間が短くなるのは、生徒の満足を得るものになかなかならない。時間配分と効率の良い展開を工夫することが重要であると感じた。